

公表

事業所における評価総括表

○事業所名	ぽかぽかスポーツ			
○保護者評価実施期間	2025年10月1日 ～ 2025年10月15			
○保護者評価有効回答数	(対象者数)	85	(回答者数)	85
○従業者評価実施期間	2025年10月1日 ～ 2025年10月15			
○従業者評価有効回答数	(対象者数)	6	(回答者数)	6
○事業者向け自己評価表作成日	2026年7月31日			

○ 分析結果

	事業所の強み（※）だと思われること ※より強化・充実を図ることが期待されること	工夫していることや意識的にやっている取組等	さらに充実を図るための取組等
1	スポーツ・運動療育による身体能力と自己肯定感の向上	一人ひとりの体力や特性に合わせたスモールステップの運動プログラムを組み、「できた!」という成功体験を積み重ねられるよう支援しています。	集団スポーツだけでなく、個人の苦手克服に特化した個別アプローチの時間をさらに確保します。
2	安全管理の徹底と職員間の迅速な情報共有	運動中の怪我を防ぐため、活動前のヒヤリハット共有とフロア内の危険予測（リスクマネジメント）を毎日のミーティングで徹底しています。	外部講師を招いた救急救命講習や、スポーツ障害に関する専門研修の受講頻度を増やします。
3	保護者との緊密な連携と日常的なフィードバック	日々の送迎時だけでなく、連絡帳や写真付きの活動報告を用いて、お子様の「運動での頑張りや変化」をポジティブに分かりやすく伝えています。	日頃の報告に加え、定期的な面談で保護者の潜在的なニーズや家庭での困りごとをより深くヒアリングします。

	事業所の弱み（※）だと思われること ※事業所の課題や改善が必要だと思われること	事業所として考えている課題の要因等	改善に向けて必要な取組や工夫が必要な点等
1	集団行動が苦手なお子様への個別フォローの難しさ	集団でのスポーツプログラムがメインとなる際、周囲のペースに合わせることが難しいお子様へのケアが手薄になってしまうことがある。	プログラム中の人員配置を見直し、全体を促す役割と、個別のサポートが必要なお子様に寄り添う役割の分担を明確にします。
2	専門的な療育知識（発達障害の特性理解）のさらなる向上	運動指導の技術は高い職員が多いが、児童一人ひとりの特性（自閉スペクトラム症やADHDなど）に応じた行動心理的アプローチにばらつきがある。	事例検討会を定期開催し、特定の行動に対する適切な声かけや対応について全職員で共通認識を持てるようにします。
3	PC（パソコン）を使った学習支援での操作難や集中維持の難しさ	マウス操作やキーボード入力にお子様が進んでしまうことがあり、また、画面に気を取られて学習そのものへの集中が途切れてしまいがちである。	視覚的に分かりやすい操作ガイド（画像付きの対照表など）を作成するとともに、一人ひとりの習熟度に合わせた個別サポートの時間を設定します。また、運動療育の強みを活かし、パソコン学習と身体を動かす活動のメリハリをつけた時間配分を行います。